

令和元年度 指定管理業務 実績評価シート

部課名

観光部観光課

施設名	星と森のロマンピア
施設の設置目的	自然の中で学習、スポーツ及びレクリエーションを通して市民の健康増進と世代間交流並びに都市住民とのふれあいを深め、グリーンツーリズムの整備構想による農業体験型観光を推進するなど滞在型観光を目指し、産業経済の振興及び住民の福祉の増進に寄与することを目的として設置したものである。
所在地	弘前市大字水木在家字桜井113番地2
指定管理者名	一般財団法人星と森のロマンピア・そうま
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
<p>1 事業計画の実施状況</p> <p>事業計画にある管理運営の基本方針・理念に沿った事業を実施している。</p>	
<p>2 自主事業の実施状況</p> <p>プールや森林科学館を利用し、健康サポート教室やスイミングスクールを他団体とも協力しながら積極的に開催したほか、天文台においては、天体現象に合わせた観測会や、中央公民館と連携してのことも天文クラブを開催した。また、弘前大学国際連携本部や地域おこし協力隊と連携し、留学生対象の体験型授業等を実施した。</p>	
<p>3 市民サービス向上のための取組状況</p> <p>昨年度に引続き、健康をテーマにした高齢者向けの5種類のトレーニング教室を開催しており、利用者の利便性向上を図るため教室に合わせ無料の送迎バスを出している。また、市内在住のりんご農家を対象とした冬季間のトレーニング教室の開催場所を提供し、利用者の利便性の向上を図るため温泉割引券を進呈している。</p>	
<p>4 市民ニーズの把握の実施状況</p> <p>宿泊客・日帰り客へ任意のアンケート調査を実施しており、ネットエージェント内の口コミと合わせて年間約900件のアンケートを回収した。そのうち重要なコメントに対してはデータを整理し、直ちに対応できるものは改良を行っている。</p>	
<p>5 施設の利用状況（利用者数、稼働率など）</p> <p>白鳥座と満天ハウスの宿泊利用者数合計は前年対比で約400名下回ったものの、宿泊部門の売上は前年度を約2,500千円上回っている。白鳥座の稼働率は客室稼働・定員稼働ともに約1%アップしており、満天ハウスは客室稼働・定員稼働とも約2%ダウンしたが、販売価格の見直し等により売上は前年度を約900千円上回っている。その一方で、日帰り宴会、バーベキュー等の日帰り部門の利用者は前年を約4,000人下回り、施設全体の利用者数は前年より約2,800名少ない約186,000人となっている。</p>	
<p>6 指定管理業務の収支状況</p> <p>宿泊と日帰り宴会プランの販売価格・宿泊料金体系・ネット上での販売方法の見直し等によって売上げが増加しているほか、食材仕入れ原価等経費の管理を徹底したことで経費を削減できている。働き方改革対応のための人件費増や破損した重機の弁済費支出のほか、新型コロナウイルス感染症による影響を受けながらも、黒字決算となっている。</p>	

7 実地調査の結果

概ね適正に管理・運営されているものとする。

8 成果指標の達成度

白鳥座(宿泊):目標=9,041人 実績=9,647人 達成度=106.7%
 白鳥座(温泉):目標=49,340人 実績=46,735人 達成度=94.7%
 白鳥座(プール):目標=23,545人 実績=24,800人 達成度=105.3%
 満天ハウス(宿泊):目標=6,655人 実績=6,401人 達成度=96.2%
 館外施設利用:目標=20,870人 実績=26,113人 達成度=125.1%
 天文台:目標=5,200人 実績=4,652人 達成度=89.5%

9 評価

(1) 指定管理者の自己評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	基本業務、それに付随する業務が適正に行われ、職員配置なども適切に実施された。	「働き方改革」を意識した業務の改善・効率化と適切な人員配置のさらなる検討が必要。
施設の管理	B	基本業務、個人情報の管理、守秘義務の遂行、書類や備品の管理は基準書に則り適正に行われた。	施設の老朽化に伴う改修を含め、今後当施設はどうあるべきか、引き続き市側と協議しながら進めていきたい。
経理の状況	B	他財団やコンサルタントからのアドバイスを受け詳細分析、データ化を行い、適切な業務を行った。	詳細分析に関してはまだまだ不足の部分があるため、引き続きアドバイスを受けながら内容を充実させていく。
団体の財務状況	C	黒字決算となり指定正味財産も微増したが、新型コロナウイルスの影響が引き続き懸念されるため慎重に見極め、対策を施すことが必要である。	次年度以降、新型コロナウイルスの影響が非常に大きい。弘前市とも調整しながら、様々な方策を探り、出来るだけ早い時期に財務状況が安定するよう努めていく必要がある。

(2) 市の指定管理者に対する評価

評価区分	評価	評価の説明	今後の課題と対応
施設の運営	B	利用者増加を図るため各事業の実施や業務改善が行われているほか、職員のスキルアップを図るためセミナー等に参加しており、適正に実施されている。	業務の効率化と利用者へのサービス向上が必要である。
施設の管理	B	施設の不具合やクレーム等には市の担当者と連携しスムーズな対応を行っており、適正に実施されている。	老朽箇所の改修や設備の維持管理について、現状把握と計画的な実施が必要である。
経理の状況	B	経理状況の分析やデータ化などによって経営改善を図っており、概ね適正に実施されている。単年度黒字とはなっているものの、新型コロナウイルスの影響等を考慮すると、更なる工夫・改善が必要と考える。	これまで以上に収益性の向上、原価率の管理、経費削減を図る必要がある。
団体の財務状況	C	単年度黒字とはなっているものの、正味財産残高や新型コロナウイルスの影響等を考慮すると、更なる工夫・改善によって財務状況の安定化を図る必要があると考える。	団体の目的に沿った事業の展開し、経営の安定化を図る必要がある。

【評価の視点】

評価区分	評価の視点
施設の運営	法令等の遵守、使用許可、市の指定事業、付随業務、自主事業、公平性、職員配置・研修、開館時間・休館日、職員の接遇、利用者ニーズの把握・反映、事業計画の実施状況、業務報告など
施設の管理	利用者の安全対策、施設・設備の維持管理、個人情報の管理、文書等の管理、備品等の管理、緊急時対策、災害対策など
経理の状況	帳票等の整備、経理の区分、収支状況、経費の削減、帳簿等の保管状況など
団体の財務状況	安定的な施設の管理が可能な経理的基盤を有しているか

【評価の基準】

A	協定書・基準書等の内容を超える管理運営が行われたと判断できるもの (適正な管理運営に加えて、更なる取組みや成果があると評価できるもの)
B	協定書・基準書等の内容を概ね適正に実施していると判断できるもの (軽微な改善点はあったが、速やかに改善されているもの)
C	協定書等の内容に対して改善点はあったが、適切な改善策が講じられているもの
D	協定書等の内容に対して不履行があるものや、改善がなされていないものがあるもの

※「団体の財務状況」の評価基準

B	問題がない
C	今後に注意を要する
D	早急な改善を要する